

文字の歴史と造語の原理

人類最初の文字は、今からおよそ 5300 年前(紀元前 3300 年頃)に、今のイラクの土地に住んでゐたスメール人によって創作されました。それは勿論、言葉を 1 語 1 語表した表語文字でした。そしてその造語の原理は実に見事なものでした。続いて、エジプト人、インド人、中国人によって作られましたが、これらはいづれも許慎の説いた「象形・指事・会意・形声」に「てんちゆう・かしやく」を加へた所謂六書と同じ原理に依って作られました。

単純な物事は“指事”と“象形”とで表現出来ますが、それで表現出来ない物事は“会意”と“形声”といふ合成造字法によって作りました。それでも出来ない場合には“てんちゆう”といふ用法でこれを表現しましたが、それでも出来ない場合の最後の手段が“しやく”といふ用法でした。

“しやく”とは、その名が示す通り、どうしても或る言葉を文字に表現することが出来なかった場合、既に存在する文字の中でその言葉と同じ、もしくは似た発音の文字を“借”りて間に合はせる、といふ“しやく”の用法です。

文字の使命は意味を伝達することに在ります。所が、その大事な意味を捨てて言はばその容器に過ぎない音声だけを借りる用法ですから、

用字法としては最低であり、それで“しやく”と呼ぶわけです。

それでも、外国の言葉を表記しようといふ場合には、それを翻訳するか、もしくはこの“しやく”の用法に依り表記する以外に方法がありません。ですから、文字を有たない民族が、既存の文字を借りて自分たちの言葉を表記しようとする時には、必ずこの“しやく”の用法に依って表記することになるのです。